第２３回鳥取市さじアストロパーク

星景写真コンテスト入賞作品目録

一席

「立山に立つ天の川」
高羽　浩さん
(岐阜県)

台風一過の立山。雷鳥沢キャンプ場にテントを張り稜線まで登っての撮影だそうです。地獄谷を右に、左のキャンプ場には色とりどりのテントが、夏の薄明の中に浮かびます。その上空には天の川が流れ下り、夏の高山の宵の雰囲気が心地よく見る人の心に染みます。多くの登山者の張るテント。その中での作者の孤高を感じさせられます。心に染み込む作品になりました。

※掲載した作品は、印刷時に作品本来の質が損なわれております。ご了承ください。
※入賞作品は、鳥取さじアストロパーク公式ホームページにも掲載しています。

第23回鳥取市さじアストロパーク星景写真コンテスト

☆主　　催☆　鳥取市さじアストロパーク
☆協　　力☆　写友会カプリシャス、鳥取天文協会
☆協　　賛☆　中央光学、テレスコープセンターアイベル、天文ハウスＴＯＭＩＴＡ、(株)中井脩、三鷹光器(株)
☆後　　援☆　AstroArts/月刊星ナビ、(株)さじ弐拾壱
☆募集期間☆　平成２８年１２月１日（木）～平成２９年１月１３日（金）
☆応募結果☆　１２３点（６０名）
☆審　　査☆　委員長／佐治天文台台長・香西洋樹
委員／鳥取市さじアストロパーク副所長、ほか

第２３回鳥取市さじアストロパーク星景写真コンテスト 総評

審査委員長　香西洋樹(佐治天文台長)

佐治天文台は、今年（２０１７年）で開設以来満２３年を迎えます。当初から継続して来たこのコンテストも、前回までと同様「星のある風景」をモチーフにした「星景写真」として全国的に募集いたしました。その結果、北海道から四国・九州に渡る全国各地の６０名により１２３点の作品が寄せられました。今回は昨年に比べ応募総数が幾分減少していますが、これは全国的に天候が不順だった事の現れだろうと思われます。応募頂いた方々の年齢は、前回と同様に１０歳代の若い方から７０歳以上の高齢の方までにわたり、特に中年の方々の応募数が増しました。何かと多忙な中年の方々。寸暇を見つけて家族共々で親しむ夜空の星々。今後の活躍が期待されそうです。これは星空、言い換えると人と宇宙についての関心が広がり、そして深まったことを示しているのではないかと思っています。

今回、応募された作品を拝見するとき、作者自身の自然との関わりや、自然観、さらに人生観などを感じさせられる作品が目立ちます。若年の人は新鮮な眼差しで、中年の方には勢いを感じ、高齢者は成熟した瞳で見つめ、人と宇宙の関わりを表現しました。また、撮影の場所についても、いわゆる撮影のための遠征に加えて自宅付近、故郷の星空を改めて見上げる姿勢が見られることは大変好ましいことと感じます。評者は、以前から居住地の、言い換えると生活の拠点の星空を大切にしたいものと語り続けてきました。すなわち、都会には都会の、田舎には田舎の星空があります。つまり、星空は撮影地の環境を示す指標なのです。

入選作品については個々に選評を書くことにいたしますが、全応募作品が作者自身で納得し、厳選された上での応募であることは言うまでもないこと、その事実は作品を審査する過程において如実に感じました。一方、作者の作品に対する強い愛着心から、不要ではないかと思われる部分が残されたり、また星が主役なのか風景が主役なのか判り難い作品もあり、これらがかえって作品の印象を弱める結果を招いている作品もあり残念でした。デジタルカメラとパソコンによる画像処理、さらに高画質プリンターの普及により、天体を含むテーマがより身近になったことは素晴らしいことに違いありません。しかし、あくまでも自然が対象です。目で見て好感が持てる作品が何よりです。行き過ぎた処理には問題が残ります。

応募作品を拝見し、回を重ねるごとに完成度が高まったことを強く感じ、さらにこれまでの応募者に加えて、初応募の方や若い愛好者が増加したことも大きな喜びでした。写真が手軽に撮影でき身近になってきた一方で、天体を含む自然の写真に対して関心が低下してきていると危惧する声も聞かれます。星空と我々人間の関係は、永遠に変わることのない伴侶であります。何時までも皆様と共有していきたいものです。特に最近頻発する自然災害。これも地球誕生以来繰り返されてきた自然現象で、早い復興を心から願い、その被災地の上にも太古からの変わらぬ星空があることを心に留めて置くことも大切なのではないでしょうか。

最後に、このコンテストを催すにあたり、多くの方々にご協賛・ご後援をいただきました。主催者として、この場を借りて深く感謝を申し上げます。

二席「月、火星、木星、金星の接近」

木村　洋介さん(宮城県)

宮城県牡鹿半島での撮影だそうです。薄明の中に勢揃いした太陽系の仲間です。水面には月が投げかける光の輝き。その中に白波が数条見え光の印象が強まりました。散見される恒星たちもこれから光を強めるのでしょう。静かに暮れゆく海浜の一時。赤い一条の筋は沖を行く船の燈火でしょうか。人の気配が感じられます。海上の光の帯、月の道とでも言うのでしょうか。物静かな、良い雰囲気の作品です。

三席「夜空を巡る」

楠本　毅さん（香川県）

徳島県三好市塩塚峰からの撮影。どれほどの標高の山なのか不明ですが、金刀比羅宮の真南で雲辺寺の東。従ってこの画面に見える燈火は瀬戸内に面した町々でしょう。丸亀や多度津の町並みを越えて北極を巡る星々の軌跡が大きく弧を描きます。近景の山並みと中景の燈火を別けるのは雲海。遠くに人工燈火を見ながら星の巡りは時の経過を教えます。北極星同様に孤高を印象付け、天体と人、および作者との関わりを教えられます。

三席「ゆく道」

岡田　泰秀さん（北海道）

北海道の上富良野町での撮影。北海道の雰囲気が醸し出す荒涼としていてしかも何か心の安らぎを与えてくれます。なだらかに広がる耕地、その中に延びる一筋の道。まばらに点在するのは人家の灯火。７月７日の七夕の深夜、右上空には白鳥の十字架、そして下方にはW型のカシオペア。秋の淡い銀河が流れます。北海道でなければの作品。カシオペアの下方通過が緯度を教えます。

特別賞

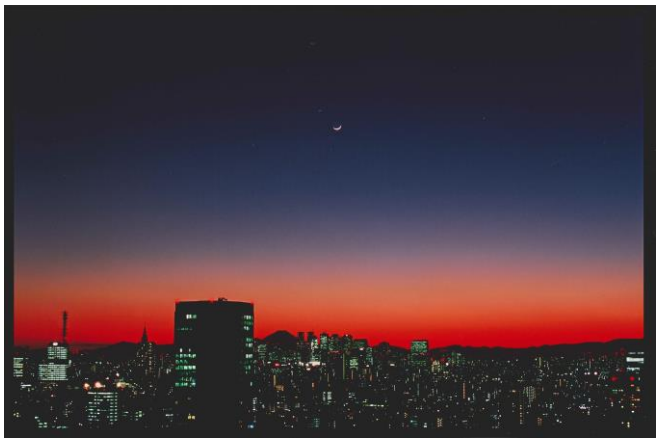
「夏の光跡」　鈴木　克哉さん（神奈川県）

「暁のシンフォニー」　内山　しおりさん（愛知県）

「星降る夜に」　近藤　ひろきさん（三重県）

特別賞

「二人の時間」　柴田　康治さん（岡山県）



「月と夕焼け」　北村　壽規さん（東京都）

佳作

「見守る」
森康宏さん
（愛知県）

「勇者の目覚める丘」
鳥羽聖朋さん
（兵庫県）

「北斗を映して」
佐藤崇さん
（宮城県）

「銀河鉄道」
平尾真介さん
（愛知県）

「光の街と共に」
澤田牧見さん
（北海道）

「枯木の精気」
湯淺光則さん(兵庫県)

「めぐる里山」
市川尊之さん(広島県)

「天の川とともに」
金川秀人さん(兵庫県)

「屏風岩の上に輝く星空」
池谷美弥子さん(鳥取県)

鳥取市さじアストロパーク
〒689-1312　鳥取市佐治町高山 1071-1　TEL　0858-89-1011　FAX　0858-88-0103
http://blog.zige.jp/saji-astro/　　e-mail　sj-astro@city.tottori.lg.jp